

ムダ遣い解消プロジェクトチームの設立について

・・・「ダレノ（誰の）ミクスプロジェクト」（通称案）

1. 設置の目的・趣旨

安倍政権発足以降、「アベノミクス」「アベノミクス」と呪文のように唱え続けて四年近く。しかし、ほとんどの国民が景気回復を実感せず、生活は一向に良くなならないばかりか、格差や貧困が拡がっている。「アベノミクス」は既に、その限界を露呈していると言えよう。

特に、その「第二の矢」＝財政出動は、相変わらず、自民党政治の宿咄＝「公共事業のバラマキ」「使い途のない基金へのブタ積み」等に堕し、消費税を8%に上げて、民進党が訴える「人への投資」（医療・介護や年金、教育・子育て支援等の充実）には程遠いのが現状だ。

一体、この「アベノミクス」とは、誰のための政策なのか?!やはり、自民党の支持基盤、利権や既得権益を守るための政策ではないのか。

そこで、この「あらぬ方向」に飛んでいる第二の矢の中身を精査し、そこにある「税金のムダ遣い」を徹底的に解消し、そこからねん出されるお金を「人への投資」に充てていくため、民進党蓮舫代表の直屬機関として、標記プロジェクトを設置することとする。

2. 手法

蓮舫代表が仕分け人として采配をふるった旧民主党政権時代の「事業仕分け」は、その後、5000を超える国の全事業について各府省自らが点検し、その内容や目的・成果・資金等の流れ等を公表する「行政事業レビュー」に引き継がれ、今現在も実施されている。また、「基金シート」と称して、二百近くに及ぶ全ての基金を対象に、府省による自己点検も行われている。

ただ、これらはいくまで、「身内によるお手盛り点検」の域を出ず、その効果は極めて限定的で形骸化しつつある。したがって、この特命プロジェクトにより、国会議員自らが先頭に立ち、外部有識者の知恵も借りながら、「事業仕分け」の原点に戻り、一つ一つの事業の執行状況を徹底的に精査する。

また、特に、国民の関心の高い「肥大化した東京オリンピック・パラリンピックの開催経費」「豊洲新市場の問題」等についても、更なる深掘り調査を行う。

なお、精査、調査に当たっては、「公益通報制度」「目安箱」等を活用し、広

く国民の声を聞き、情報を収集することとする。

3. チームの構成メンバー

座長 江田憲司（代表代行）
座長代理 今井雅人（N C行革担当大臣）
" 藤末健三（政調会長代理）
主査（衆議院議員）
井坂信彦
" 井出庸生
" 緒方林太郎
" 奥野総一郎
" 木内孝胤
" 岸本周平
" 後藤祐一
" 重徳和彦
" 高井崇志（事務局長）
" 玉木雄一郎
" 初鹿明博
" 福島伸享
" 山尾志桜里
（参議院議員）
" 磯崎哲史
" 小西洋之
" 杉尾秀哉

（五十音順）